

南阿蘇村等で「キリン『絆』ボランティア」を実施



キリングroupではこれまで、『復興応援 キリン絆プロジェクト』熊本支援』の活動を続けてきたが、被災地で必要とされるボランティア活動の内容や受け入れ体制が整ってきたことを踏まえ、グループ従業員自ら復興支援に参画する「キリン『絆』ボランティア」を、熊本県で初めて実施しました。

2017年6月9日～11日、16日～18日（熊本市、益城町、南阿蘇村、阿蘇市）

心と身体の元気

熊本地震発生から約1年2カ月が経過したが、被災地では現在もインフラの復旧や仮設住宅等におけるコミュニティ形成など、さまざまな課題を抱えている。キリングroupではこれまで、『復興応援 キリン絆プロジェクト』熊本支援』の活動を続けてきたが、被災地で必要とされるボランティア活動の内容や受け入れ体制が整ってきたことを踏まえ、グループ従業員自ら復興支援に参画する「キリン『絆』ボランティア」を、熊本県で初めて実施した。

活動は6月9日～11日、16日～18日の2班に分けて行われ、全国のキリングroupから応募した72名が参加した。1日目は熊本城の視察や、大きな被害を受けた益城町のテクノ仮設団地での講話・草取り作業などを行った。2日目は、地域住民の“足”である南阿蘇鉄道が一部区間で不通となっている南阿蘇村で、線路やその周辺の除草作業を実施。また、学生アパートなどが甚大な被害を受け、犠牲者も出た東海大学農学部の学生らで作った語り部サークル「阿蘇の灯（あかり）」の案内で現地を視察した。3日目は、楼門や拝殿が倒壊した阿蘇神社の門前町商店街の復興に向けた取り組みについて講話をいただいた。

3日間という短い期間ではあったが、参加した従業員らは被災地でのボランティア活動を通じて、地域復興や活性化に向けた各地の取り組みを自分事として捉え、「自分に何ができるか」を考える良い機会となった。

コメント①

麒麟ビール株式会社熊本支社 支社長 麻生 芳彦

熊本での「麒麟『絆』ボランティア」は、初めての実施でしたが、こうして実際に被災地に入り、そこで汗を流し、地域の方々の話を聞くことで、参加した従業員一人一人が肌で何かを感じ取る機会になったのではないのでしょうか。そして、その体験や思いをそれぞれの職場に持ち帰ってもらい、仕事はもちろん今後の自分の成長に生かしてもらえればと思います。



コメント②

南阿蘇鉄道株式会社 鉄道部 鉄道課 志賀 行徳 様

今回は、「麒麟『絆』ボランティア」として、全国から多くのキリングループ従業員の皆さんに参加していただき感謝申し上げます。南阿蘇鉄道は、今年3月末に出た国の調査結果によれば、全線復旧の費用は約70億円、期間は5年と試算されています。それを受け、現在は今年度中の工事着手を目指して準備を進めている段階です。不通区間のうち中松～長陽間は、線路が損傷している3カ所の工事が完了すれば、運行再開のめどが立ちます。しかし、長陽～立野間は土砂の崩壊や橋梁の崩落など被害が甚大で、再開にはなお時間がかかるものと見られます。



コメント③

キリン株式会社 CSV 戦略部 絆づくり推進室 四居 美穂子

震災から約 1 年というタイミングでボランティア活動の内容および受け入れ体制も新たに見えてきた状況を踏まえ、従業員自らが復興支援に参画する取り組みとして、今回、「キリン『絆』ボランティア」を熊本県で初実施することになりました。全国のキリングループ従業員の応募者の中から、九州地域を中心に 2 班で 70 名以上が参加しております。私自身、ボランティアの行程づくりから関わってきましたが、地域で実際に清掃活動をしたり、色々な方々に直接お話を聞く中で、地域ではまだまだインフラ整備やコミュニティー形成に課題があることを実感しました。微力でも、継続的に復興に関わる必要性を感じています。今後も個人として熊本復興支援に携わっていきたいと思うとともに、絆ボランティアの担当者としても、一人でも多くの従業員が地域にできることを考えられるような機会をつくっていかれたらと思っています。



コメント④

キリンビール仙台工場 総務広報担当 只野 京子

6 年前の東日本大震災では、私が勤める仙台工場も被災しました。その際、全国各地からたくさんの支援や応援をいただき、いつかその恩返しができればと考えていた時に、今回の熊本でのボランティア活動の応募があったので参加しました。熊本城の復旧に約 20 年かかるという話を聞き、地震被害の大きさを改めて感じました。南阿蘇鉄道も、全線が復旧するには 5 年近くかかるとのことで、まだまだ利用する高齢者や学生の不便は続くと思いますが、私たちの行った活動が少しでも復旧のお役に立てればと思います。



コメント⑤

メルシャン株式会社 八代工場 工場長 上田 渉

メルシャンが製造している焼酎「白水」は、南阿蘇村の白川水源の水を割り水に使っています。そのため、村とは地震以前から深いつながりがありました。そのため、水をいただいている南阿蘇村の被害の大きさに胸を痛めていました。地震を経て、私たちも改めて白川水源の恵みへの感謝の念が湧き、作り手として思いを新たにしました。今回のようなボランティア活動による貢献はもちろん、今後は「白水」を少しでも多くの人に知ってもらい、飲んだ人が「南阿蘇村に行ってみよう」と思ってもらえれば嬉しいです。



コメント⑥

南阿蘇鉄道株式会社 長陽駅管理駅長（「久永屋」オーナー） 久永 操 様

南阿蘇村で暮らす者として復興に少しでも役立とうと、南阿蘇鉄道沿線や村内のお店とも協力し合い、福岡まで出向いて現状の情報を発信したり、義援金を募るなどの取り組みを行ってきました。地震から1年以上が過ぎましたが、復興への歩みはまだまだゆっくりで、支援も必要です。今後、皆さんに熊本地震や南阿蘇村のことを忘れられないようにするためにも、情報発信を続けていくことが大切だと思っています。今回のキリングループの皆さんのボランティア活動を通じて、また新たな絆が生まれたことにも感謝しています。



コメント⑦

協和発酵キリン株式会社 研究開発本部 長友 一剛

熊本地震で大きな被害を受けた益城町の出身で、両親の住む実家も被害を受けました。地震直後は心配で、すぐにでも帰りたい思いでしたが、両親から「余震もあるし、ボランティアの方々もいるから」と言われ、ゴールデンウィーク明けに帰省しました。飛行機から見た熊本の住宅街が、ブルーシートで青いモザイクになっていたのに大きなショックを受けました。今回の活動で、ようやく自分も熊本のために何かができ良かったですし、「次に何をやるべきか」を考えるきっかけになりました。



コメント⑧

キリン株式会社 人事総務部 岩間 勇気

現在は出向でキリン株式会社の人事部に勤めていますが、原籍は厚生労働省で熊本地震の際には、現地に応援に行っていた職員から様々な話を聞いていました。今回のボランティア活動を知り、「今度は自分が行く番だ」との思いで参加しました。まだまだ元に戻るには程遠い状況の中、熊本の皆さんが支え合いながら「できることをやろう」と取り組んでいるのが伝わってきました。そうした皆さんの「思いを汲む」ことを、今後の仕事にも生かしていきたいと思います。



コメント⑨

麒麟ビール株式会社 中部圏統括本部 吉津 直

2009年から2015年まで熊本支社に在籍しており、うち2年間は南阿蘇村などを含む県北エリアを担当していました。テレビで熊本城を見た時には、熊本のシンボルともいえる場所が傷ついた姿に涙しました。それだけに、地震発生当時は何もできない自分に忸怩たる思いがありましたが、今回ようやく現地で活動することができて良かったです。人々は復興に向けて明るく前向きに頑張っていると思いますが、インフラや住宅はまだまだ復旧の途上。時間が経過しても、私たち県外の人間にもできることがあると思うので、今後も自分なりにお手伝いしたいと思います。



コメント⑩

麒麟株式会社 CSV 戦略部 絆づくり推進室 淵田 紳一

私自身も東日本大震災の際に被災し、自宅の床下は津波が運んだ土砂で埋まりました。その時に、多くのボランティアの方が土砂の掻き出しを手伝ってくれたことを、今でも感謝しています。昨年、熊本地震が発生し、「自分も一度はボランティア活動を」と思い参加しました。現地で自分の目を見て、話を聞いて、被害の大きさに改めて驚かされました。一方で、仮設住宅の建設などは東北よりも早く、東日本大震災での経験や知見が熊本の復旧に生かされているのを感じました。今後は、熊本地震を風化させることなく、今回のような活動が少しでも広がっていけばと思います。



コメント⑪

東海大学 農学部 語り部サークル「阿蘇の灯（あか）り」 代表 橋村 さくら 様

南阿蘇村黒川地区は、私たち東海大学農学部の学生たちの住むアパートや下宿が数多い地域でした。近くに駅やスーパーなどもない不便なところですが、それだけに人の繋がりの強い地区で、楽しい学生生活を送っていました。熊本地震では大学の校舎を含め、地区全体に大きな被害があり、犠牲になった学生もいます。幸いにも生き残った私たちは、亡くなった方々のためにもこうして熊本地震で起こったことや当時の気持ち、命の大切さを皆さんに伝えていくことが役目だと思います。

